

「中国産を国内産で販売」にお答えします

RIが雑穀を本格的に取り扱いのきっかけは、雑穀の仕入れが国内産の雑穀のはずでスタートしましたが、いつのまにか輸入雑穀に切り替わっていた事が発覚したことからでした。その時に生産地、集荷業者など多方面から調べましたが、不透明な所が多く納得のゆく解答はありませんでした。アトピーへの対応食との雑穀が、ポストハーベストによる危険な食べ物であるということも動機となりました。

【MISSION OF RICEISLAND から抜粋】

RIは、自然と共存できる持続性のある「食」を通じて安全・安心・健康・栄養・おいしさ・環境保護を追求していきます

食物の国内自給率を高めるためにも、穀物食をすすめます

穀物食により、保存料・添加物、ポストハーベストを減らします

できるだけ精白しないで、全粒を食べられるよう提供します

食べる人のため作る人のための穀物流通をすすめます

日本の食の中心である穀物文化を見直し普及させます

国内産雑穀は産地開拓の専任者を設置し、生産者・農業法人そしてJAを訪問して栽培協力をお願いをしています。RIでは種子の供給、栽培方法や収穫量を上げる情報交換を行いながら、規模の拡大とコストダウンをすすめております。輸入雑穀はポストハーベストフリーで中国の吉林省に社員を置き、自社輸入を行なっています。流通まで管理されたポストハーベストの無い雑穀を輸入しています。

今回、RIの取扱商品で始めて「ポストハーベスト」を使った中国産の黒米を扱う事になりました。本年作の米輸入が、中国政府の方針でストップとなってしまっています。SBS制度による輸入のみが認められていますので、黒米を中国から輸入することにしました。SBSの輸入には指定商社経由であるため「ポストハーベスト」が使用されます。

RIの自社輸入で始めてのポストハーベストを使った農産物となりました黒米は入荷次第検査してレポートいたします。使用方法はその後の決定となります。

このようにRIでは国内産と輸入と明確に区別し雑穀を出荷しておりますが、数社から輸入物を国内産で出荷しているなどの風評も聞こえてきました。現在、国内雑穀と輸入雑穀の双方を取り扱っているメーカーは少ないが故の問題であり、だからこそはっきり区別できるとも言えます。

麦などでは内麦か外麦など加工した段階で産地表示の必要性はなく、区別がわかりません。RIでは、加工食品においても産地(原産地)表示の準備を進めております。まずは、今後「PHF」ポストハーベストフリーマークを商品につけて、お客様への信頼にお答えできる体制づくりを進めております。国内産や輸入だけでなく、情報をオープンにすることで、トレーサビリティなどの素性のわかる体制づくりが、生産者と消費者をつなぐRIの役割と考えております。今後ともこのような様々なご質問をお気軽にお問い合わせいただける体制づくりに努めますので、よろしく願いいたします。

来週のRIレポートは、「大きく動くこれからのお米」の予定です。7/26お届けです

vol.68でご紹介致しました「テンペ」は、9月発売を予定しています。